



新たな門出

春爛漫、桜の花が咲き誇る中、今年も地元小学校や保育園の入学式・入園式に参列させて頂いていただきました。真新しい制服に身を包み、緊張と期待が入り混じった表情で式に臨む子どもたちの姿はまさに希望そのものであり、私自身も初心を思い出すような気持ちで胸が熱くなりました。

誰しも、子を持つ親として1番嬉しいのは我が子の成長を目の当たりにする瞬間ではないでしょうか。私も2人の子どもを通して幾度となく嬉し涙を流し、かえがたい感動を味わったものです。確かに親として子どもを育みますが、今から思えば、



子どもたちの発育の過程でいろいろな経験や出会いを重ねることで人として成長する機会を与えられたような気がします。



式の中で、担任の先生が一人ひとりの名前を呼び、子どもたちが元氣よく返事をする姿、保護者の方々がわが子の成長を優しく見守る姿に触れ、この地域の未来を支える大切な命が、今ここに確かに息づいていることを改めて感じました。

また、式の準備や進行に携わる先生方、保育士の皆さんのきめ細やかな配慮と温かい眼差しに、教育・保育の現場がいかに愛情と責任に満ちた場所であるかを実感しました。子どもたち一人ひとりが自分らしく成長し、笑顔あふれる毎日をご過ごせるよう、私たち大人ができることは何かその問いを胸に刻みながら、今後も地域の教育・子育て環境の充実、安心安全のまちづくりを力尽くしてまいります。

この春、新たな一歩を踏み出した子どもたち、そしてその歩みを支える皆さまに心からのエールを送ります。

傾いた掲揚台

昨年、母校の熊本西高校の体育大会にお邪魔したときのことです。開会式の冒頭、国旗、校旗、県旗の掲揚がありました。その際、掲揚台のポールを見ていたら、どうも真ん中の国旗のポールが傾いているように見えるではありませんか。私の目の錯覚かと思いつ、近くにいらした先生に確認したところ「傾いている」とのこと。両サイドの校旗や県旗ならいざ知らず、国旗のポールとなると看過するわけにはまいりません。早速関係機関に事情を説明して対応をお願いしたのでした。

頑丈に設置されているはずのポールが傾くとはにわかに信じられませんでした。調査が終わった後日、傾いた理由を尋ねると、「恐らく学校の周囲に高い建築物がないことにより、金峰山からの強い吹き下ろしの風による影響ではないか」とのことでした。

確かに言われてみれば周りには風を遮るものが一切なく、創立50年が経過したことから傾くのも無理からぬことかもしれません。

過日、掲揚台が新たに完成しました。生徒たちも真っ直ぐに成長してもらいたいものです。





経済環境常任委員長として

この度、県議会経済環境常任委員会の委員長を拝命しました。私自身、今年度は経済と環境の両面で極めて重要な節目の年になると認識しています。

台湾の半導体企業TSMCの工場が本格稼働し、熊本県の経済には大きな追い風が吹いています。この成長の果実を一過性のものにせず、いかに長期的な視点で多くの県民に届けていくかが、私たちに課せられた責務です。産業の裾野を広げ、地域の雇用や人材育成、地元企業の活性化につなげていかなければなりません。



一方で熊本県は「水の国」と称されるほど豊かで清冽な水資源に恵まれています。この貴重な財産を守り、次世代に確実に引き継いでいくこともまた、今を生きる私たちの使命です。

経済の発展と環境の保全：一見相反するように見えるこの2つのテーマは、いまこそ同時に議論されるべき時を迎えています。今年度の経済環境常任委員会では、双方の調和と未来志向の政策づくりに力を尽くしてまいります。

県民の皆さまの声に耳を傾けながら、地域の可能性をさらに広げていけるよう責任と誇りをもって職務に邁進いたします。

6月県議会定例会で一般質問をします(予定)



私が常に思っているのは、一般質問は単なる質問ではなく、私たち議員から執行部に対する政策提案であり、真剣に議論する場であると捉えています。事前に制度を精査し、現場を調べ、多くの皆さんの生の声を聞くことを通じて政策や制度の改善を提案することにより、県民市民の生活を向上させることを究極の目的と捉えて毎回登壇しています。

まだ現時点(4月25日)で質問項目は定かではありませんが、トランプ関税を踏まえた上での熊本県の財政運営や教育、農業などに焦点を当てたいと思います。これから当日まで膨大な資料に目を通して質問作成に励みます。

